

2023年日本開催の「G7関係閣僚会合」の奈良県開催に対する支援

奈良県における取組

【担当省庁】外務省

○奈良の特色

かつては日本の政治・経済・文化の中心を担った「明日香・藤原の宮都」「平城京」が生まれ、その後も豊かな歴史とともに歩んできた「いにしへの都」奈良県。奈良県には、国宝や重要文化財などに代表される豊かな歴史文化資源が数多く分布。

また世界遺産も、日本全国の登録件数23のうち、3件が奈良県に位置しており、世界に誇る歴史文化資源の宝庫。

「古都奈良の文化財」の一つである平城宮跡では、大極殿、朱雀門が復原され、2022年春には、南門が完成予定。また「飛鳥・藤原」の世界遺産への登録も推進しているところ。



古都奈良の文化財

○東アジア地方政府会合の開催

奈良県は、2010年、平城遷都1300年を機に、日本、中国、韓国の地方政府を中心とする「東アジア地方政府会合」を設立・開催し、以降、ほぼ毎年度、奈良県のイニシアチブにより継続的に開催。

現在の会員数は7カ国75地方政府（中国18、インドネシア2、マレーシア1、フィリピン3、韓国8、ベトナム5、日本38）。



東アジア地方政府会合

○奈良県コンベンションセンターのオープン

奈良公園と平城宮跡の中間、世界遺産に囲まれた唯一無二の立地に国際会議場とJWマリオット・ホテル奈良が隣接された新たなコンベンション施設がオープン（2020年4月）。建物は天平建築をデザインモチーフとした外観であり、海外や県外からの来場者が奈良らしさを感じられるように、内装に吉野杉や手すき和紙などを多く使用。

最大のホールは2,100㎡を有し、これまで本県で開催できなかった大規模な国際会議の開催が可能となるなど、県内最大の会議場・観光交流拠点としてにぎわいの創出に寄与。

また、約1,000㎡を誇る大屋根付き屋外広場を併設しており、天候に関係なく開放感あふれるMICEが開催可能。



奈良県コンベンションセンター



JWマリオット・ホテル奈良

○JWマリオット・ホテル奈良 他ホテルオープン

2020年にJWマリオット・ホテル奈良、ふふ奈良、ダイワロイヤルホテル他が開業、2022年以降もマリオットグループ、星野リゾートなどのホテルが開業予定。

既存の奈良ホテルやホテル日航奈良に加えて、様々なバラエティに富んだホテルが増加することで、観光地奈良のブランド力が向上。

○MICE推進室の設置

奈良県が抱えてきた課題「観光客の県内滞在期間が短く、宿泊客数が少ない」を解決するために、MICE誘致活動に注力。

2020年には観光局内に「MICE推進室」を設置し、「奈良県コンベンションセンター」を活用した積極的なMICE誘致活動を推進。

○UNWTOガストロミーツーリズム世界フォーラムの開催決定

MICE誘致活動の成果として、2022年に開催される国連世界観光機関（UNWTO）主催の「第7回ガストロミーツーリズム世界フォーラム」の奈良県での開催が決定。



第5回世界フォーラムの様子



第5回世界フォーラムの様子

【これまでの国際会議開催実績（政府系）】

2010年9月	APEC観光大臣会合
2011年1月	日中韓文化大臣フォーラム
2013年11月	APEC人材育成国際フォーラム
2013年12月	国連世界観光機関アジア太平洋センター観光教育セミナー
2014年11月	UNWTO観光統計スペシャルワークショップ
2014年11月	INTERPRAVENT 2014
2015年5月	日・アセアン特許庁長官会合
2016年2月	UNWTO遺産観光に関する国際会議
2016年6月	UNWTO・観光庁共催「観光と技術に関する国際会議」
2016年6月	UNWTO東アジア・南アジア合同地域委員会
2017年6月	日米草の根交流サミット2017奈良大会

【国際会議の開催件数と順位】（日本政府観光局（JNTO）ランキング）

○2019年 開催件数：35件（全国14位） ○2018年 開催件数：39件（全国13位）

国にお願いすること

2023年に日本で開催される「G7関係閣僚会合」の本県における開催を希望

会場のある奈良市内は、奈良時代の都・平城京が置かれた国際交流都市であり、ユネスコ世界遺産リストに登録されている「古都奈良の文化財」などの歴史文化遺産と、豊かな自然が融合されたところ。

会合のメイン会場として「奈良県コンベンションセンター」を中心に、周辺の施設を一体的に使用。

奈良県の魅力を発信するために関係閣僚会合の誘致に支援をいただきたい。

【県担当部局】知事公室国際課 観光局MICE推進室